

令和7年度

# 「運営に関する計画」（案）

（様式1）

中間報告（hp用）

大阪市立大宮西小学校

令和7年11月

## 大阪市立大宮西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

本校は、1 年生 35 名、2 年生 43 (+2) 名、3 年生 26 (+1) 名、4 年生 35 名、5 年生 44 名、6 年生 43 名 計 225 名の中小規模の小学校である。クラス編成は 2、5、6 年が 2 クラス、他は 1 クラスの編成となっている。また、本務の教職員構成は 26 名 (±3) であり、大阪市教育委員会から、学習面を支援するための加配を配置し、学校運営をおこなっている。

令和 4 年 3 月改定の市中期目標達成に向けた昨年度の目標は、「安心・安全な教育」では全般的にわずかながら未達成、「学力・体力」ではおむね達成、「教育環境」では全体として上回って達成の状況だった。ただし、学年別、同一集団による経年変化等を分析すると改善をめざす必要がある。特に「教育環境」面では、一昨年度配置されて大幅な改善に寄与したワークライフバランス支援員、そしてスクールサポートスタッフ (S S S) も配置されておらず、厳しい状況であった。今年度は S S S の配置があり、学校事務作業環境面での一定の改善が見込まれる。中期目標達成のためには、もう一段ギアを上げて取り組むべき項目も多く、教職員が一層の共通認識に基づいた実践を進める必要がある。

## (1) 児童数と学級数（特別支援学級を含む）

年度	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
児童数									
学級数									

## (2) 学校選択制実施状況

年度	通学区域内就学予定者数 A	他校区への転出による減 B	他校区からの転入による増 C	実質入学者数 D = A - B + C	転出者の割合 E = B ÷ A	実質入学者率 F = D ÷ A
R 5						
R 6						
R 7						
R 8						

## ■大阪市が定める 3 つの最重要目標と 9 つの基本的な方向

## 1 【安全・安心な教育の推進】

- 基本的な方向 ① 安全・安心な教育環境の実現
- 基本的な方向 ② 豊かな心の育成

## 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 基本的な方向 ④ 誰一人取り残さない学力の向上
- 基本的な方向 ⑤ 健やかな体の育成

## 3 【学びを支える教育環境の充実】

- 基本的な方向 ⑥ 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進施策
- 基本的な方向 ⑦ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
- 基本的な方向 ⑧ 生涯学習の支援
- 基本的な方向 ⑨ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

## ■上記以外で本校が定める目標 (学級経営、専科指導、特別支援教育、清掃活動、食育 など)

## 1 【安全・安心な教育の推進】

いじめ、不登校、虐待その他問題行動については、各種対策委員会等で即時情報共有をし、組織的な対応に努めている。また、近隣の小学校および中学校との連携も随時行っている。必要に応じて区役所子育て支援子ども相談センターや警察、医療機関などの外部機関との連携した対応を行っている。

	R 4	R 5	R 6	R 7
いじめ件数				
不登校件数				
不登校率				

学校内には、学年別室や図書室、保健室、校長室など多様な児童の特性や抱えている背景、その時々の児童の状況に応じて、児童が安心して過ごすことのできる場所を整備している。なお、不登校児童の在籍比率は、毎年増加傾向にある。一人ひとりの状況に応じた支援を行ったうえで改善していくことが望まれる。そのため、学校全体で、児童理解を柱とした、児童に寄り添った丁寧な対応を続けていくことが極めて重要である。

昨年度につづき、今年度のアンケート結果からも、大半の児童が、大宮西小学校に通うことを楽しみにし、友達や教員を信頼し、優しさ思いやりのある学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も丁寧な対応を心掛け、安全で安心な学校づくりをすすめていきたい。

## 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市学力経年調査 同一母集団 学年別経年比較

令和6年度 大阪市学力経年調査の結果は、3年生の理科、6年生の英語以外、すべての学年、教科において正答率が大阪市平均・標準化得点の100を超えることはなかった。学力向上委員会を中心として、ふりかえりプリントの活用等を通して、学年や個々の課題を明確にして、習熟度別少人数指導の工夫や個別学習に取り組んできたが成果として表れているところと表れていない結果が見られる。

新学習指導要領の「主体的対話的で深い学びのある学習（学び合い）」は、従来の「教師が教える」中心の授業から「子どもが学ぶ」ことに中心を移すことを示唆している。これは欧米諸国においては、30年以上前から取り組まれている、世界の教育界におけるグローバルスタンダードであるし、何より学力向上の一番の近道でもある。学びは本来は一人でするものであるが、現状は一人で学べない子どもは少なくない。そこで、授業中の子どもの「わからない」を大切にし、また言語活動、コミュニケーションを豊かにし、子ども同士のつながりを活かしながら、子どもの学ぼうとする心に火をつけるような指導で学び合いの授業を構築し、学力を向上させていきたい。

### 【参考】全国学力学習状況調査 結果

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果については、男子は握力、上体起こし、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投の5種目が、全国平均を上回った。一方女子は握力、上体起こし、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げの5種目が、全国平均を上回った。運動が楽しいと感じている児童は多い。体育の授業や休み時間には、楽しく運動することができている。俊敏性や持久力を高めるために、なわとび週間やかけあし週間を継続して取り組むとともに、体育の授業の進め方についても改善を図っていく必要がある。

なお、今年度は、学習指導要領が定める「主体的対話的で深い学びのある授業づくり」を推進する学校として、東京大学名誉教授佐藤学の支援を受けながら「学び合い」をベースとした学校づくりを進めてい

く。このため、毎月の授業ビデオを使った研究協議会、そして全市公開授業研究会を年3回予定している。

### 【取り組み】

文科省学習指導要領「主体的対話的で深い学び」の実現に向けて

- ① 年間3回の「全市公開授業」の実施
- ② 月1～2回行う「ビデオ研修」
- ③ 月2～3枚発行する「学び合い通信」
- ④ 夏休みに「全市公開研修会」を5回実施

### 3 【学びを支える教育環境の充実】

本校では、教職員に一人1台、児童一人1台端末が配備され、各教室に大型モニターやアクセスポイントなどの設備や各種ネットワークも整備されている。授業では、デジタル教科書やプレゼンテーション資料などを大型モニターに表示し、児童にとってわかりやすく、教員にとっても効率的に進めることができている。また、様々な理由で登校できない児童へ、オンライン授業やGoogle Classroomを通して、授業に参加したりプリントなどの資料を配布したり、個に応じた支援を行っている。授業以外では、オンライン中継による全校集会や各種アンケート調査などにICT機器を活用している。

一方、本校では長時間勤務となっている教員が一部に見られ、心身の健康面が不安である。疲労蓄積チェックなどを行い、学校産業医の助言をいただきながら運営している。児童のために献身的に寄り添って対応する姿や時には厳しく愛情をもって対応する姿、丁寧に保護者との関係づくりをする姿、授業の準備や研究に熱心に取り組む姿などをたくさん見ており、教育者としてのるべき姿に大宮西小学校が支えられているのも紛れもなく事実である。

引き続き、職場サポートを高めるとともに、「働き方改革」の薄皮を削るように、少しづつでも進めていき、業務量や勤務時間についての軽減について改善していくことで、教職員一人ひとりが安心して、やりがいをもって働くことができる職場環境の構築に努めていきたい。

### 【取り組み】

個別最適化の学習、働き方改革の推進に向けて

- ① 校時の変更 3時10分 6限終了
- ② 完全2足制 → 清掃の簡略化
- ③ 主体的清掃の実施
- ④ フレキシブル勤務体制の推進

### 中期目標

#### 1 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいいことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下とする。
- ・令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を60%以上にする。

#### 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童

の割合をどの学年も 35%以上、平均 40%以上にする。

- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、100 以上とする。
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をどの学年も 80%以上、平均 85%以上にする。
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。

### 3 【学びを支える教育環境の充実】

- ・**授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 71%以上にする。**
- ・令和 7 年度小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 3 年 50%以上、4 年 70%以上、5 年 90%以上、6 年 100%とする。
- ・「ゆとりの日」（17 時 30 分閉庁）を週に 1 回設定・実施し、学校だより等で発信するとともに順守する。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 1 【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 88%以上にする。（令和 6 年度 86.6%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（令和 6 年度 2.1%）
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童（5人）の改善の割合を 50%以上とする。
- ・年度末の児童アンケート「学級や学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定回答の割合を 85%以上にする。（令和 6 年度 84.6%）
- ・年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目について、肯定回答の割合を 83%以上とする。（令和 6 年度 80.7%）
- ・年度末の児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」の項目についての肯定回答の割合と、保護者向けの対応項目でどちらも 93%以上とする。（令和 6 年度 91.8%）

### 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を **どの学年も 40%以上** にする。（令和 6 年度 30.8%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 0.3 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **87%以上** する。（令和 6 年度 85.9%）
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **どの学年も 80%以上** とする。（令和 6 年度 79.3%）
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を **75%以上** にする。（令和 6 年度 73.1%）
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度（令和 6 年度 **4 年 19.5%、5 年 21.1%、6 年 7.7%**）より 1 ポイント減少させる。

- ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合を52%以上にする。(令和6年度50.5%)

### 3 【学びを支える教育環境の充実】

- ・運動会当日などICT活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年50%以上、4年70%以上、5年90%以上、6年95%とする。(令和6年度平均93.1%)
- ・「ゆとりの日」(17時30分閉校)を週に1回設定・実施し、学校だより等で発信するとともに順守する。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 1 【安全・安心な教育の推進】

#### 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 3 【学びを支える教育環境の充実】